

「デジタルアーカイブ」と「研究データ」 の出会いシンポジウム

“Digital Archive” meets “Research Data”

～データの保存と活用へ、ライブラリアンとアーキビストの挑戦

図書館をはじめ、博物館・美術館、文書館等は、デジタルデータの保存・管理・活用にあたり、技術的課題や法務的課題など、様々な場面で発生する新たな課題に直面しています。それらの課題は、研究データにおけるものと共通しています。このシンポジウムでは、9月に開催された研究データ及びデジタル長期保存に関する国際会議の議論を共有するとともに、デジタルアーカイブと研究データの親和性に注目して、両者の共通課題を共有しその解決に向けて議論します。

日時: 2017年11月6日(月)

13:30～17:45 (13:00開場)

会場: 国立国会図書館 東京本館 新館講堂

東京都千代田区永田町1-10-1 東京メトロ永田町駅より徒歩10分

申込
方法

国立国会図書館ホームページ「イベント・展示会情報」の当該イベントページ
(<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/201711rda.html>) より申込みを受付

研究データ利活用協議会

RDUF
Research Data Utilization Forum

Twitter ハッシュタグ:
#JaLC_RDUF2017

参加無料
定員300名
(先着順)

[お問い合わせ先]

国立国会図書館電子情報部電子情報サービス課 次世代システム開発研究室

電話: 03-3506-5144 (直通) E-Mail: devent@ndl.go.jp

主催: 国立国会図書館

後援: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館、

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター

プログラム

13:30~13:35 >>開会にあたって

国立国会図書館電子情報部長 小寺 正一

<13:35~14:55 第一部：国際会議報告>

13:35~13:55 >> 「節目を迎えたRDAの今後～モントリオールRDA大会から（仮）」

情報通信研究機構 戦略的プログラムオフィス研究統括、RDUF副会長 村山 泰啓

13:55~14:10 >> 「RDAに参加して～デジタルアーカイブとの接点」

科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官 林 和弘

14:10~14:30 >> 「デジタルデータの長期保存～iPRES京都大会から」

筑波大学図書館情報メディア系教授 杉本 重雄

14:30~14:45 >> 「iPRESに参加して～JPCOARの取組みから研究データの保存を考える」

国立極地研究所情報図書室 南山 泰之

14:45~14:55 >> 休憩

<14:55~16:40 第二部：国内事例報告>

14:55~15:15 >> 「デジタルアーカイブと研究データ：人文学における利活用の展望」

人文学オープンデータ共同利用センター長、国立情報学研究所准教授 北本 朝展

15:15~15:30 >> 「研究データとしての古典籍：その必要と活用」

国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 副センター長 山本 和明

15:30~15:45 >> 「自然史標本データのアーカイブと研究」

国立科学博物館動物研究部 研究主幹 神保 宇嗣

15:45~16:00 >> 「アジア歴史資料センターの利活用」

国立公文書館アジア歴史資料センター 次長 佐野 豪俊

16:00~16:15 >> 「国立国会図書館におけるデジタルアーカイブと研究データ

～保存と活用の可能性」

国立国会図書館電子情報部 副部长 川鍋 道子

16:15~16:30 >> 休憩・質問票提出

16:30~16:40 >> 研究データ利活用協議会案内

国立情報学研究所教授、RDUF会長 武田 英明

<16:40~17:40 第三部：討論>

16:40~17:40 >> フロアも交えたディスカッション

「デジタルアーカイブと研究データの出会い：

保存と活用における課題と知見の共有に向けて」

司会：人文学オープンデータ共同利用センター長、国立情報学研究所准教授 北本 朝展

パネリストは講演者全員

17:40~17:45 >> 閉会挨拶

国立情報学研究所教授、RDUF会長 武田 英明